



風のかたち

それはある夏の日の一日。 [5時23分] 水平線の向こうから朝日が顔をのぞかせる。イヌを連れて散歩にきたおじさん。波打ち際をジョギングする人。朝の光を受け、柔らかい風がカタチを持つ。 [10時05分] 少し風が出てきた。浜辺に人が一人、また一人。今日も暑くなりそうだ。浮輪を持った子どもが波と戯れている。海風が吹き込むと膨んだり縮んだり、クルクルくるくるカタチがかわってゆく。 [12時40分] 太陽がてっぺんまで昇ってくる。キラキラした光が海を満たし、浜辺はパラソルでいっぱいになる。ゆっくりと変わるカタチに水面の揺らめきが写りこみ、海の底へと心をいざなう。 [13時28分] 風が強くなってきた。浜辺の人々も屋下ガリのゆっくりとした時間を過ごしている。風にはためき大きく伸びたりつぶれたり。ぽっかり空いた大穴は、風のカタチに風景を切りとる。 [18時42分] 浜辺は夕焼け色に染められてゆく。帰り支度を急ぐ人。名残惜しそうに犬が鳴いている。日がくれる一瞬。マジックアワーにそれはおとずれる。海風から陸風になる風の時。一瞬の無風を経て、風はカタチを取り戻す。そして、夜の闇へと消えてゆく。明日はどんな風のかたちだろう。 それはある夏の日の1日。